

## 胃 X 線検査、午後の実施は可能か？

○永山大志 小原勝敏 坂本弘明 半澤俊和  
公益財団法人 福島県保健衛生協会

### 【目的】

胃 X 線検査は通例、絶食・絶水を原則として午前中に実施しているが、時折、午後実施できないかという問い合わせを受ける。そこで、前処置として一定の条件を設定し、午後検査を行うことで、胃がん検診としての精度上問題がないか否かを検証した。また、検診受診機会の増加や、絶食・絶水に伴う苦痛を和らげることが、胃がん検診の受診者数減少抑止の一助と成り得るかも検討した。

### 【対象】

被験者は、令和2年度の当協会職員の健康診断において、血清学的にヘリコバクター・ピロリ菌に未感染であることが証明されていて、本検査に同意が得られた7名。

### 【方法】

検査当日の朝7時迄に軽食を終えるよう依頼した。水分は11時迄に水またはお茶500mlを上限として摂取を許可し、コーヒー等の胃液分泌を誘発させる物は禁止した。軽食は「塩おにぎり100g」群と「6枚切り食パン（耳カット）」群の2群に分け、比較検討した。検査は軽食摂取後6時間を経た13時に開始した。バリウム150ml（200w/v%）の内20mlで発泡剤5gを服し、残りの130mlを飲用後、基準撮影法第2法で撮影を行った。画質評価は医師1名、診療放射線技師2名で行い、背臥位正面像・背臥位第一斜位・右側臥位像を対象として「5（良好）から1（不適）」の5段階評価を行った。

### 【結果】

塩おにぎり群は平均〈3.3点〉、食パン群は平均〈4.3点〉であり標準よりも高得点であった。2群とも残渣を認めず粘膜描出も比較的良好であり残水の影響は軽度であった。

### 【考察】

生じた点差は、塩おにぎり群は胃内の水分の排泄が全量に及ばず、食パン群と比較して胃内バリウム濃度が若干低下したことが原因と考えられた。また、読影を低下させる程の残渣や残水による低画質の要因は認められず、ベタつきに起因する胃液も水分と共に排出されたと推測され、検査精度は午前に実施する検査に劣らないと思われた。さらに、同受診者の前回画像（午前実施）と画質を比較したが同等であった。

### 【まとめ】

午後の胃 X 線検査実施は、空腹によるストレスの軽減及び、受診機会の選択肢が広がることにより、検診受診率の向上に繋がるものと考えられる。前処置における食事、水分量等の明瞭なルールの作成、実施主体の理解を得るためのデータ収集等を行い、午後検診の運用実施に向けて、さらに検討を加える予定である。